

明治大学 2019 年度【夏期】 国際化サポート海外留学奨励金 留学報告書

| | |
|---|--|
| 研修先名 | オーストラリア・インターンシップ |
| 所 属 | 商学部 商学科 ファイナンス&インシュアランスコース 4年 |
| 留学先での学習(実習)内容およびご自身の学習成果について記載してください。(250~300 字程度) | |
| <p>留学先はオーストラリアのシドニーである。今回私がインターンシップをさせて頂いたのは Steve Watson & Partners という建築のコンサルティングファームである。この会社で私が主に行ったのは入力作業やファイルの移動作業である。簡単そうではあるが、もちろん英語表記や英語での説明等、慣れない英語での活動であった。この会社から学んだことは主に 3 つある。成果という観点からオフのメリハリを大事にするべきだということ、その成果を出すために必要な高い生産性には仕事を楽しむ必要があるということ、また仕事を楽しむにはプライベートも楽しむ必要があるということだ。</p> | |
| 課外活動等,授業以外の時間にどのような経験を得ることができたか記載してください。(250~300 字程度) | |
| <p>オーストラリアに一月滞在したことで気づいたことは、多くの人種・文化・考え方があるということだ。これは日本という島国から出たからこそ気付くことが出来た。オーストラリアには白人だけでなく、チャイナタウンが出来るほどチャイニーズがおり、仕事場にはイギリス人・台湾人・インド人等、国籍も様々であった。話していても日本での当たり前が当たり前ではないということに、気づかされた。私は日本だけでなく、海外でもコンサルタントとして力量を試してみたいと考えているため、この多様性は自分の視野を広げる非常に良い機会となった。今後も日本に留まらず、世界という大きな観点でモノを見ていきたいと思う。</p> | |
| 滞在先・現地での生活に関する経験・感想について記載してください。(250~300 字程度) | |
| <p>シドニーでの生活は電車移動が基本で、通勤に 1 時間と日本での生活とあまり差はないように感じられた。また多国籍な飲食店が多数存在し、治安も良いため居心地はよかった。毎日同じカフェで同じサンドイッチを食べ、常連さんとして店員と仲良くなる等、楽しいことは多かった。ただ今回上手いかなかったのは、ホームステイ先の家族との関係である。ホームステイ先の家族は経済的に裕福で、ゲストハウスやプールを持っていた。私はゲストハウスに住んでいたため、家族とは違った建物で生活をしていて、ご両親は障害がある息子さんの世話を常にしていたため、お話しをすることがあまり出来なかった。反省点。</p> | |
| 今後の展望・目標について,留学前と後での変化も含め記載してください。(250~300 字程度) | |
| <p>前述したが、生産性の大切さを学んだ。日本の一般的な企業では残業が美德とされる伝統があるようだ。ただ日本から出てみると、同じ仕事をするのに、長い時間をかけることは恥ずかしい、という全く異なる考え方がある。私は大学入学時、前者のように仕事一筋の人生を好んでいた。しかしコンサルタントとして働くことが決まって以来、時間当たりの生産性がいかに大切であるかを多くのコンサルタントから学んだ。オーストラリア人の仕事とプライベートへの考え方は、生産性という観点を大事にし、私の働き方を後押しした。海外留学奨励金を頂けたからこそ、今回の視野の拡大に繋がったと考えています。ありがとうございました。</p> | |
| 写真貼付 (1 枚) | |
| <p>※研修先で撮影した写真を 1 枚 (1MB 以内) ご提供ください。撮影場所・写真の説明も記載してください。</p> | |
| <p>エアーズロック・ウルル登山の一枚です。 本当に落ちるのではないかとヒヤヒヤしながら登りました。</p> |  |
| <p>【注意事項】提出された留学報告書は、次年度以降の短期海外研修の募集および未来サポーター募金事業の広報を目的に、原則として当原稿をそのまま外部に公開いたします (学生番号、性別、生年月日、連絡先は公開しません)。 【写真提供の注意事項】※ご提供いただいた写真は、大学の広報誌やウェブサイト、募集説明会の際利用するパワーポイント等、様々な媒体で広く広報に活用させていただく可能性があります。複数の方が写っている写真をご提供いただく場合には、写真撮影の際にその写真に写る方に本学への写真提供について許可を得ていただいたものをご提供ください。</p> | |